

獨逸兒童教育の頓挫

前田 不二三

人間社會の最も悲しむべき事は、教育の障礙である。吾人は今回の世界の大動亂に鑑みて、人間の性格を更に／＼善にして美なるものに教育しなければならぬ。智育に偏し、自己の利益をのみ計る様な精神を人格の中から消滅させて了はなければならぬといふことを痛切に感じた。人間の教育上此の目的を達しなければ、人間は決して戦争といふことを止めない。従つて、この地球上には、人間社會の平和といふことが、どうしても來り得ない。

しかるに、歐洲の真中に、前世紀の後半に於て、中歐の心核ともいふべき健全な文明を建設し、兒童研究、兒童教育、兒童保護政策において、世界に冠たり、又、同時に東洋における我々日本人と相俟つて西洋における最大産兒國の一なる獨逸に於て、兒童教育と兒童保護政策の實施について、人間歴史あつてより以來、未だ曾つて見ざる一大悲惨、一大障礙が生じた。

其の原因は何かといふと、兒童社會の食と衣とに大不足を惹起し、又住に對しても従つて苦痛を覺ゆる様になつて來たのである。

又、獨逸における兒童教育の頓挫とは、如何なる事かといふと、兒童は、食物、主として牛乳が大不足を來したので、發育出來ない。學齡に達しても、發育不完全の爲めに入學する事の出來ない者が澤山ある。家に坐つて居る、二歳になつても、三歳になつても歩かれない兒童の數は、どれ位澤山あるかわからぬ位で、七歳八歳になつて、漸く歩く事の出來る子供が少くないのである。此の發育不完全は今や獨逸の兒童社會においては一般の現象となつて居る。

又、兒童社會に非常に病氣が多くなつて來た。獨逸の肺結核消滅政策は有名なもので、この結果として、同國には、此の患者が非常に減少して居つた。之は正確な統計があつて、識者間にはよく分つて居

る。然るに、この獨逸は、今や急轉直下で、世界唯一の肺病國とならんとしつゝある。この肺結核が、今や獨逸においては、幼少年をおそひつゝある。

殊に、吾人をして、哀を感せしめるのは、兒童の神經衰弱といふことである。今日迄、兒童社會には、神經衰弱といふことは、全くないことで、之は成人に起る現象である。然るに獨逸の兒童(この點については、埃國も同様)は空腹で一日を送り、空腹のままに寢について、一寸眠つたかと思ふと空腹のために眠られないで、すぐに目が覺める。加之、衣服も不充分で、ズボン下もなく、靴下もなく、石油、電氣、瓦斯等のために支拂ふ金がないから、夜になると燈火なしで、室内にごろ／＼して居る。

かゝる状態にある獨逸の兒童社會は今や全く死滅に一步／＼近づいて居る。乳牛十六萬頭及び馬、牛、豚等、中年位の動物を、佛、白等に提供して了つた。大正九年度の兒童の死亡は如何に大いか、この統計はまだ分らないが、實に戰慄に値するものがあると思はせられる。大正三年の戰爭開始の年と、大正六年とにおける五歳から十五歳迄の子供の死亡とを比較して見ると次の如くである。

大正三年……………三萬七千二百五十人
大正六年……………五萬二千八百五十四人
大正六年は、まだ戰禍の甚だしくない時代であるが、それでも大正三年に比較すると一萬五千六百六十四人の増加である。

右は、學童數の減少の理由であるが、次には、學校における教育の種々の障礙を手短かに述べると、學校で時々授業を始められない事がある。それは、兒童が榮養不良で衰弱して居つて、(この數は全獨逸に於て約八割より九割)體力も氣力も缺乏して居つて、授業がうけられず、遊ぶだけの體力がないから、ちつと坐つて居つて、先生に何かお話をして下さいと願ふのである。

都會の状態によつて異なるが、空腹のために、學校で、四割位は脊柱を直立させられない者がある。學校においては、右の事情があるから體育は多くの學校においては、不可能である。
兒童の注意は常に何かの食物か、又は自分の胃か腹に向つて居る。故に教師の云ふ事に注意を向ける力が甚だ弱い。

我々、幸福の境遇において、今日の獨逸の兒童

觀察すると、實に、哀れども、悲惨ども言語に絶して居る。衣物もなければ食物もない。シャツ一枚洗濯するにも、石鹼がない。顔を洗つても拭ふに手拭がない。幾百萬の兒童がかゝる境遇にあることを思ふと實に同情に堪へないのである。

斯の如き兒童を有して居る母親の身になつて考へて見、又、かくの如き兒童を我が子の如く愛する學校の教師の位置にたつて見ると、親の心や、教員の悲しみは如何に大なるものであうか。一人の子供が少し病氣になつて、ビイ／＼泣かれても我々は中々苦しいのであるが、獨逸の母親が毎日／＼どうして子供を養はうかと、いくら心配しても、其の效なく、榮養足らぬために骨が充分出來なくて歩く事が出來ない様な有様を日々目の前に見て居るのは如何に悲しい事であらうか。

獨逸から償金を取る事について斯ういふ説が行はれて居る。償金を無理に取つて獨逸を破産させると、歐洲の經濟が紊亂して終ふと。私はこれと同様に、若し獨逸一國を軟骨人體(骨が榮養不良のために發育せざりし人體 Rachtis)の國となし、肺結核國となせば、その影響は即ち歐洲全體に及ぼし、不幸、災

禍の原因を爲すのである。

また、實に恐るべきは、兒童の不道德心の増長である。背に腹はかへられないといふ諺の如く、子供は如何にしてか食物を得ようと思つて、店頭に菓子でもあるのが眼に入れば、つい盜心が生ずるのである。

もし、戰爭責任の罰として、獨逸より乳牛、馬、羊等を奪ひ去り、兒童の道德心をおとろへさせ、然して、かゝる兒童の數が幾百萬と出來れば、これこそ人類社會のため、悲しむべきことではあるまいか。

○

「日本服の私共がシャツがない、ズボン下がない、靴下がないといつても、大した苦しさを感じませんでせうが、洋服で、シャツも、ズボン下もなく、その上裸足では、その姿を想像して見ても大變ですれ」

「手拭もない、シャボンもない、きたないまゝの顔や手足、そうして働いて、空腹をかゝへて……。何といふおそろしいこととせう」